

平成28年度 熊本県「生きる力」を育む研究指定校  
平成28・29年度 菊池市教育委員会「学力向上」研究指定校

## 菊池市立隈府小学校公開授業

### 研究主題

確かな読みの力を高める説明文指導の工夫

～支持的学級風土のある学び合い活動と  
効果的なICT活用を通して～

### 研究紀要



#### はじめに

昨年度「確かな学力の定着をめざした授業の工夫」を研究主題として自主発表を行いました。今回、熊本県「生きる力」を育む学力充実研究指定並びに菊池市教育委員会「学力向上」研究指定を受け、国語科を中心に研究を進めてきました。

そして本年度は、表記の研究主題のもと、子どもの主体的な課題解決により、確かな学力の定着を図るため、支持的学級風土のある学び合い活動について研究を深め、さらにICTの効果的な活用についても検討してきました。今年度は各教科等の学習の基本である国語科の読む力に焦点を当てて日々の実践に努めています。

本日は、本校の取組の一端を公開し、参会の皆様のお寄せいただいた御意見・御感想を賜りまして、今後の研究推進に生かして参りたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

平成29年1月26日（木）

## 研究主題

# 確かな読みの力を高める説明文指導の工夫

～支持的学級風土のある学び合い活動と効果的なICT活用を通して～

## 主題設定の理由

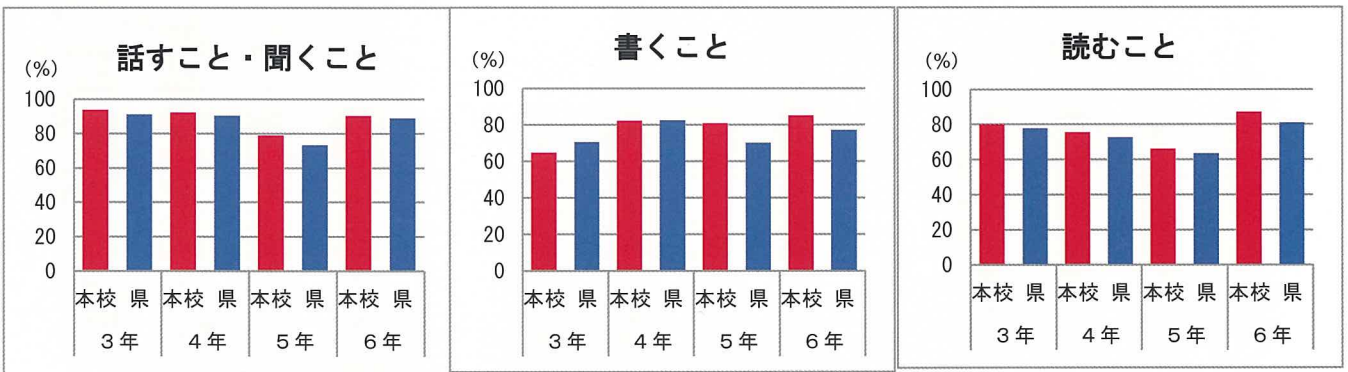
### (1) 教育の今日的課題から

- グローバル化により急速な情報化や技術革新による社会的変化に対応できる「生きる力」の育成
- 知識・技能，思考力・判断力等を総合的に育むアクティブラーニングの重要性
- 教師のICT活用指導力やICTを活用した授業の充実・質の向上

### (2) 学校教育目標の具現化から

本校の教育目標は、「人間尊重の精神を基盤に，全職員の英知を集結し，生きる力をもった品位のある子どもの育成～『自立』・『規律』・『感謝』～」であり，「やさしく」「げんきに」「しんげんに」という子ども像に迫るために「生きる力」の育成が大切である。本研究に取り組むことは，本校教育目標を具現化するものと考えている。

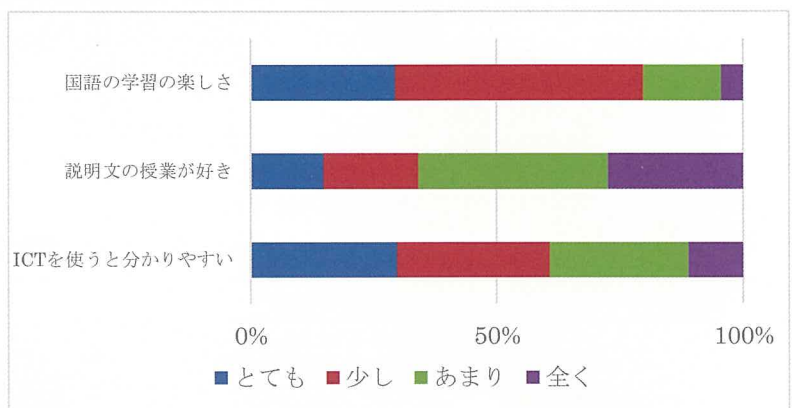
### (3) 児童の実態から



### 〈平成27年度県学力調査（国語）の定着率〉

- ・国語科においても全体的に見て県平均を上回っているが，「読むこと」では，学年が上がるにつれて定着率が下がる傾向が見られる。文章の構成や内容を読み取る観点を明確にした「読むこと」の指導の充実を図る必要がある。

- ・児童の意識調査（H28，6月）では国語の学習の楽しさを感じている児童は多いが，「説明文」の授業を好む児童は少ない。
- ・自分の考えをもち，表現する力もついてきている児童もいるが，一部の児童に発表が偏ることが多い。全ての児童が思考し，表現する授業展開の工夫と支持的学級風土のある学級集団づくりが必要である。



### 〈国語に関する児童の意識調査の結果（H28，6月）〉

- ・電子黒板のICT機器を使った授業は分かりやすいと回答した児童が多いことから，ICT機器を有効に活用した授業づくりを目指す。

## 研究主題の分析

### 「確かな読みの力」とは

文章の構成を理解し、筆者が伝えたいことを正確に読み取る力。

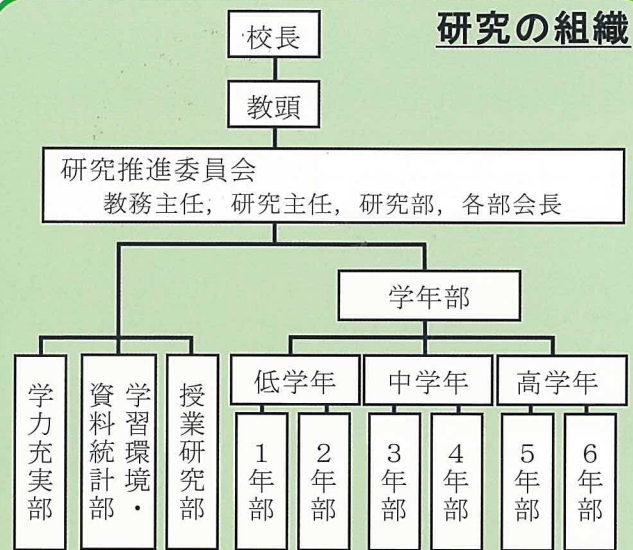
### 「支持的学級風土のある学び合い活動」とは

誰もが安心して発言したり、「わからない」と言えたりする学級の雰囲気の中で、主体的・協動的に課題を解決する学び合い活動。

### 「効果的なICT活用」とは

自分の考えを伝えたり、学習内容の理解度を高めたりして学習目標を達成するためにICT機器の活用を行うこと。

## 研究の組織



## 仮説1 説明文指導の工夫

子どもが説明文の読み方が分かり、読み取ったことをもとに自分の考えを広げる授業展開を工夫すれば確かな読みの力が高まるだろう。

## 仮説2 支持的学級風土のある学び合い活動

子どもが「わからない」「教えて」と言える支持的学級風土を育成し、みんなで分かることを目指した「学び合い活動」を授業に取り入れれば、友だちと一緒に課題について考え、課題を解決し、確かな読みの力が高まるだろう。

## 仮説3 ICT機器を活用した授業の工夫

ICT機器を効果的に活用して、自分の考えを伝えたり、視覚的により分かりやすい資料を提示したりするなどの授業の工夫を行えば、確かな読みの力が高まるだろう。

## 研究の仮説

## 研究の構想図

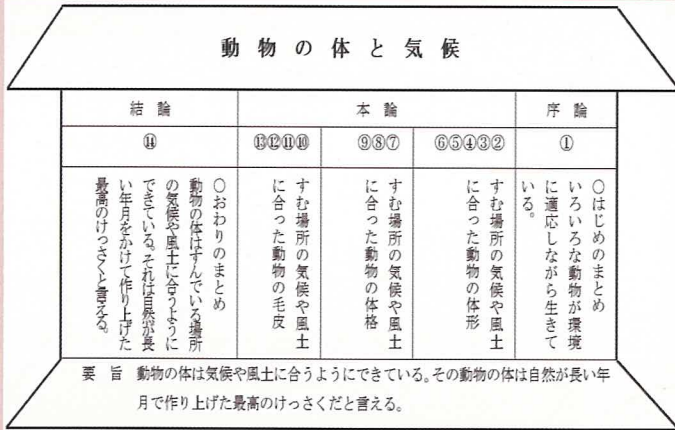


# 研究の実際

## 〈研究の視点1〉 説明文指導の工夫

説明文の読み方が分かり、読み取ったことをもとに自分の考えを広げる授業展開の工夫がなされているか

### 説明文の構成を理解する「説明文の家」



### 説明文「読みの10+1の観点」

#### 【説明文における「10+1の観点」】

低学年	①形式段落に分ける。 ②「問い」と「答え」の関係をとらえる。 ③3つの大部屋に分ける。 ④はじめとおわりの大部屋の性格をとらえる。 ⑤説明の大部屋を小部屋に分ける。
中学年	⑥小部屋の名前（小見出し）を考える。 ⑦小部屋の一文要約をする。 ⑧はじめの部屋の一文要約（要点）をする。 ⑨おわりの部屋の一文要約（要点）をする。
高学年	⑩要旨をとらえる ⑪説明文に対する自分の考えをもつ。

説明文の構成をとらえるために二瓶弘行氏（筑波大学附属小学校）が提唱する「説明文の家」の図を活用する（左上）。また説明文における「読みの10+1の観点」（右上）をもとに学年の系統をふまえて学習を重ね、読み取りに生かしていく。

低学年では、説明文は序論・本論・結論の3つの部屋に分かれていて、本論の部屋がいくつかの小部屋に分かれることを学ぶ。（読みの観点①～⑤）

中学年ではそれぞれの部屋に書かれていることを要約し、部屋同士のつながりをとらえる。（読みの観点①～⑨）

高学年では要旨とそれぞれの部屋の内容のつながりをとらえて、説明文で筆者が伝えたいことを受け取り、それに対して感想や意見をもつ力を育てる。（読みの観点①～⑪）

## 第5学年 「動物の体と気候」（東京書籍5年）

### 【目標】本論3の小部屋の名前をつけよう

つかむ：教材文や説明文の家の掲示を活用して、既習事項をおさえながら学習をふりかえり、本時の課題をつかませる。

ふかめる：小部屋の名前について全体で検討し、小部屋3を読み取る。

これまで小部屋1と2の名前を小部屋の名前のポイントに注意して考えましたね。今日は小部屋3の名前をつけましょう。

「気候に合うような毛皮が自然の力でできた」だと思います。小部屋3は毛皮について書かれているからです。

小部屋の名前を付けるポイントを示すことで、要旨との関連を考えながら、要約することができ、本論を読むことができるようにした。

暑い気候でも、寒い気候でも同じ「毛皮」じゃないのかな。

もとめる：小部屋の名前の条件に合うように要約させる。

⑪⑫⑬段落には毛皮のことが書いてあるから「毛皮」が入るよ。

ニホンカモシカの毛皮は防寒用の毛皮でフェネックの毛皮は暑さ対策なので違う「毛皮」だと思います。

本論1・2ときょうだいになるから「気候に合うような」を入れよう。

小部屋3は気候によって動物の毛皮が変わるのがわかったね。では小部屋3の名前は「気候に合うような毛皮が自然の力でできた」でいいですか。

## 〈研究の視点2〉支持的学級風土のある学び合い活動

支持的学級風土をもとに、みんなでわかることを目指した学び合いをすることで読みの力を身に付けているか

### 支持的学級風土とは

本校の学び合いでは、全ての児童がわかる授業を児童が主体的につくっていくことを目指している。そのためにはお互いの意見が尊重されることはもちろん、誰もが安心して発言したり、「わからない」と気軽に言えたりする学級の雰囲気大切になる。そこで、安心して発言ができるような学級集団をつくり、友だちと一緒に考え、課題を解決し、確かな読みの力を身に付ける授業を目指す。児童の主体的な学び合いを目指して、学級の実態に応じて、学び合いのルールを設定した。

#### 【学び合いのルール】（例）

- ①分からないことがあるのは、当たり前である。
- ②全員がわかる授業をするためには、みんなの力が必要であること。
- ③全員が「わからない」「教えて」と気軽に言える学級にすること。自分の意見を積極的に伝えることでわかる授業になっていく。
- ④真剣に聞いているという気持ちが、話をしている人に伝わるように、返事をしたり、うなずいたりして反応しながら聞く。

### 学び合いとは

学び合いは子どもたちがもっている知識をもとにして主体的・協働的に課題を解決する学習

#### ①課題設定

児童が協働解決を行う中で、指導目標を達成できるような課題を設定する。

#### ②おさんぽ学習

児童は課題について考えるなかでわからないことが出てくる。この疑問が出てきたときを学びのチャンスととらえる。児童は自由に席を立て移動して友だちと考える。自分の席で座って考える子どもがいてもよい。常に思考し続けていることを重視する。

#### ③協働解決

学級での学び合いは、まずわからないことを共有し、意見を出し合い、わからないことを解決していく。教師は適時、発問したりもう一度話し合わせたりして大事なことに気づかせる。

## 第2学年 「ビーバーの大工事」（東京書籍2年）

### 【目標】ビーバーはどのようなじゅんじょでダムをつくるのか読み取ろう

もとめる：ビーバーがダムをつくるためにすることを文章から見つける。（おさんぽ学習）

ふかめる：途中でわからなくなった児童の意見をもとにみんなで考えを深める。

ビーバーがすることは5つあるけど…

疑問やわからないことが出た児童や自分の考えがまとまった児童から席を立てて友だちに聞きに行く。

「つみ上げて」と「おもしろいをして」はべつかな。

ぼくはべつに引いたよ。

なんでこんなふうに線を引いたのかな。聞きに行ってみよう。

〇〇さんはビーバーがしたこと二つ目まではわかったけど三つ目で迷ったらしいよ。どうやって見つけたらいいでしょうか。

その上に小えだをつみ上げるのもビーバーがすることだと思います。

ビーバーがダムをつくる順序をまとめましょう。

どろでしっかりの「しつかり」をまとめに入れた方がいいです。しつかり固めないと固まらないからです。

〈研究の視点3〉ICT機器を活用した授業の工夫

ICTを効果的に活用して、自分の考えを伝えたり、視覚的に分かりやすい資料を提示したりするなど授業の工夫を行っているか。

ICT機器を活用した授業の工夫

課題をつかむ・理解を深める

自作の動画やスライドを作成し、課題を把握したり、読み取ったことを確かめたりすることで理解を深めることができる。

第3学年「自然のかくし絵」(東京書籍3年)



昆虫の擬態の様子をデジタル教科書等の動画を使って具体的に提示することで読みを深める。

第2学年「ビーバーの大工事」(東京書籍2年)



ビーバーのダムの方で本当に水が止まったね。

教師が実際に簡易のダムを作成した動画を提示し、児童の読みを深める支援を行っている。

考えを比較、共有する

電子黒板やタブレットに教材文を写し、大事な言葉や文章にサイドラインを引かせる。友だちと考えを比較したり共有したりできる。

第1学年「いろいろなふね」(東京書籍1年)



ぼくはぎよせんのだく目はここに書いてある「さかなをとるためのふね」のところだと思います。

わたしと同じだな。

サイドラインを引いたところや大事な文章を簡単に比較したり、確認したりできる。

分かりやすく伝える

自分の考えを文章と図、表、写真などを入れてスライドにまとめて発表させた。発表者も聞き手も相手意識をもち、スライドを使ってわかりやすく発表できる。

第6学年「町の幸福論」(東京書籍6年)



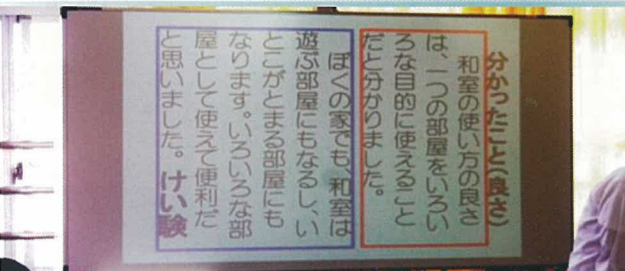
ぼくは、この写真のような取組を菊池市でも行えば、さらに菊池市の水がきれいになると考えました。どうですか。

声だけでなく、写真などの資料を示しながら発表することで、発表内容の理解が容易である。

学習のポイントを確認する

読みのポイント等を電子黒板に提示したり、タブレットに表示させたりして、いつでも大事なことを確認できる。

第4学年「くらしの中の和と洋」(東京書籍4年)



これまで学んだポイントをデジタルノートにまとめておくことで、いつでも確認することができ、既習事項を生かした学習ができる。

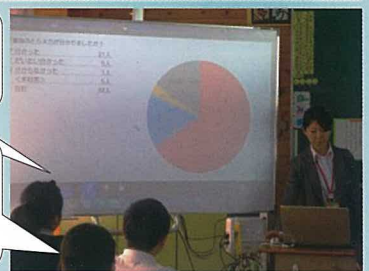
学習の評価

まとめの際にタブレットのアンケート機能を活用し本時の学習目標について自己評価を行うことで、次時への目標を持たせることができる。

第6学年「町の幸福論」(東京書籍6年)

前の時間より分かった人がふえたね。

次の時間はもっとみんなが分かるように工夫して説明しよう。



アンケート機能を活用し、個々の児童の評価を瞬時に集計し、学級全体で共有することで、児童及び学級の実態を把握し、評価することができる。

## 〈部会の活動〉学力充実部

子どもたちに身に付けさせたい国語の基礎学力を話し合い、朝活動の時間にパワーアップタイムを行った。

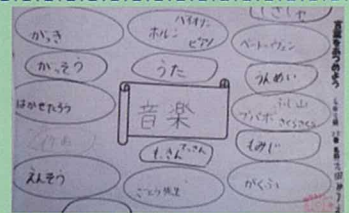
### 「伝えよう」

自分の考えをもち、まとめ、伝える力を身に付けることをねらいとする。  
【1年生】絵や写真を見て場面を想像し、伝え合う。  
【2年生】自分の考えに理由をつけて伝え合う。根拠に経験を入れる。  
【3～6年生】  
新聞記事を読み、要点をまとめ、自分の考えを書き、伝え合う。



### 言葉集め

語彙を増やすことをねらいとする。  
一つの言葉を提示し、そこから連想する言葉をシートやノートに書いていく。  
繰り返し取り組むことで連想できる言葉の数が増えた。



### 意味調べ

語彙を増やすことと辞書の使い方の練習をすることをねらいとする。  
20語の単語を時間制限の中で調べる。「復旧」や「復興」などの類義語を取り入れ、活用の力を付けた。



### 詩の音読

発声の練習をねらいとする。  
聞き手に伝わる声で発表できるように声を出す練習をした。



## 〈部会の活動〉学習環境・資料統計部

言葉の力を高める校内掲示の工夫やアンケート作成、集計を行った。

### 「学習コーナー」の掲示

国語の教科書に出てくる内容から、習得してほしい語句や表現を「ことばマスターの道」として掲示した。年間を通して「①語彙を増やす②接続語の活用③文作り」と掲示物の内容を変化させた。クイズ形式にすることで、児童が楽しく学習できる掲示になるように工夫した。



2年接続語の使い方



4年言葉集め



5年意味をそえる言葉



6年様子や気持ちを表す言葉

### 「季節をかんじて」の掲示

季節に合った短歌や俳句を掲示した。季節に合った写真と一緒に掲示し、感性に迫ることができる掲示になるよう工夫した。



冬の掲示



秋の掲示

## 成果と課題（○成果 ●課題）

### 仮説1 説明文指導の工夫

- 「説明文の家」や「10+1の観点」で学年の系統も示したため、授業で確認していくべき既習事項や単元で身に付けなくてはならない指導事項をおさえ、実態に合った指導ができた。児童も、説明文の構成や読み方を理解してきている。自分の考えを話したり書いたりするときに、説明文の構成を活用することができるようになった。
- 児童が説明文の構成をとらえるためには、児童が主体的に説明文を家の形にまとめたり、観点を活用して読んだりする活動を取り入れていく必要がある。

### 仮説2 支持的学級風土のある学び合い活動

- 学び合いを行うことで分からない児童が自分から動き、主体的に課題を解決する意識を高めることができた。友だちの考えを聞き、思考を深めることができるようになってきている。また、他の教科でも、意見を出し合い、考えを深める学習ができるようになってきている。
- 学び合いの際に、児童が主体的な課題解決ができる課題設定の仕方や指導者の役割、指導者が行う支援などについて共通理解を図る必要がある。

### 仮説3 ICT機器を活用した授業の工夫

- ICT機器の活用により、資料が大きく提示されるため、児童の話す聞く言語活動において相手意識の高まりが見られる。また、各児童のタブレット画面を電子黒板に提示することで文章の比較、検討が容易になり学習内容の理解が深まることが分かった。
- ICTの国語科での有効な活用のためには、タブレット操作の能力、特に文章入力の高める必要がある。そのために、総合的な学習の時間等で文字入力の技能を身に付けるよう見直していきたい。

### おわりに

今年度は、熊本県教育委員会「生きる力」を育む研究指定校・菊池市教育委員会「学力向上」研究指定校として、国語科の授業研究を柱とした実践的な研究を進めてきました。現在もこの研究成果を活かしつつ、反省と対策を重ねながら、更なる研究推進に邁進しているところです。

本年度は、「説明文指導の工夫」「支持的学級風土のある学び合い活動」「ICT機器を活用した授業の工夫」を研究の視点として、校長、教頭、研究主任そして、担任を中心に、全学年で系統的、具体的な授業改善、学級経営に取り組みました。その結果、子ども達は全ての教育活動の中でたくさん「できた、わかった。」という成功体験を積み自己肯定観を高めてきました。そして、主体的、協働的な学習態度の形成を見ることができたことは、本研究の大きな成果だと思えます。

今後とも、本校の研究推進のために御指導・御助言をどうぞよろしくお願いいたします。

### 研究同人

宮川 淳一	佐賀 宏基	西田 祐二	松崎 文子	二ノ文三輝子	佐藤真由美	益崎 英子
中原 優子	光山 恵一	寺井 京子	富田 潔	丸山 久美子	洲上 彰子	三池 美樹
平尾 幸夫	松田 忠二	上園 美香	藤吉由美子	平田 留美	山元 紀保	松岡 祐次
片峯孝一郎	木下倫太郎	後藤 明子	徳淵 香織	豊田 麻美	美坂 昌宏	橋本 太郎
古木 優麻	吉田 優太	有働 加織	上村 昂彰	鶴野麻奈美	森田 大介	中川 彩香
富田 和加	川内 奈央	芹川幸良子	糸岡 豊子	上田 恭	上林 延代	大石亜矢子
山口 美華	田崎 昌子	高田亜希子	川口 智美	横田 志乃	下田 英子	

### 参考文献・資料

- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』, 東洋館出版社, 2009
- 文部科学省 『特別支援学校学習指導要領 総則編』, 東洋館出版社, 2009
- 二瓶弘行 『二瓶弘行の系統的に育てる説明文読みの力〜これならできる! 小学校6年間の指導計画』, 文溪堂, 2016
- 西田純 編 『クラスがうまくいく! 「学び合い」ステップアップ』, 学陽書房, 2012
- 中川一史編 『ICT教育100の実践事例集』フォーラムA, 2011